

村長3期目 就任あいさつ

東秩父村長

足立 理助



「持続可能な村づくり」

村民の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、村民の皆さまをはじめ関係各位の力強いご支援と一方ならぬご厚情を賜り、引き続き東秩父村長として3期目の村政の重責を担うこととなりました。

過去2期8年を振り返りますと、皆さまから寄せられた期待の一つ一つに誠意を持ってお応えすべく、力の限り村政を険しいみちのなか先導してまいりました。

平成25年度の防災通信システム（タブレット）の導入は、全国に先駆けた防災情報通信の音声と文字による通信により、災害時に行政からの呼びかけが安定して伝えられるとともに、平時におけるお知らせ情報やリアルタイムな呼びかけを行える体制ができました。これは現在まで様々な用途でも活躍しており、多くの村民の皆さまにご活用いただけている状況です。

平成28年度には、地域公共交通網の再編により和紙の里を交通のハブとして整備するとともに、村の観光拠点としての和紙の里のリニューアルを目指し、より魅力ある施設とするため、JA埼玉中央農業協同組合にも協力を依頼し、農産物直売所を併設して村外からのお客さまの誘致を図ることができました。

また、現在の東秩父村にとつて、人口減少は最大の懸案の一つとなっております。人口減少を食い止め増加につなげることは難しいと考えますが、減少スピードを少しでも食い止め、地域の活力を維持しながら来るべき時に備えていく必要があります。そのようななか、移住体験住宅利用も広がりを見せており、今後これらの利用者を含め、村外へ村の移住制度を周知し、定住へとつなげてまいります。

現在の村の課題として取り上げなければならぬものに、施設の老朽化があります。耐震補強等を行いながら、施設の維持を図ってまいりましたが、建設から40年以上の施設が複数あるなか、こうした施設の建替え等の時期になってきており、財政を考慮しながら対応をしてまいります。

そして、近年の日本全国を襲う災害は、これまでの雨量や風速をはるかに超え、防災のあり方を考え直さなければならなくなっております。本村で整備した防災情報通信システムについても、その在り方が課題となっており、今後住民の生命財産を守るため地域防災計画の改定とともにシステムの在り方を協議してまいります。また、現在でも、終息の兆しが見えない新型コロナウイルスへの対応は、新薬の開発を待つしかない状況です。

そうしたなかにおいても、住民の感染者をいかに抑えるかが行政の課題となっております。このコロナへの対応は、住民の皆さまのご協力無くしては、成り立ちません。新しい生活様式が謳われるなか、皆さま一人ひとりの生活の中で、感染予防に努めていただき、自身が感染しない、人に感染させない行動をお願いいたします。

現在、村では今後8年間の村の方向性を決めるための総合振興計画・総合戦略の策定に当たっております。皆さまからのアンケートのご回答をいただくとともに、審議会の皆さまからのご意見をいただきながら、今後の「持続可能な地域づくり」を目指してまいります。今後の施策展開においても村民の皆さまの様々なご意見に耳を傾け取り組んでまいります。ご協力をお願いいたします。

そして、私たち行政執行部には、伝統と文化を守り、後世に伝えていく義務がございます。これからも、地域の皆さまと手を取り合いながら、「持続可能な村づくり」を進め、いつか私も先人となり、後世に残る「志」となるよう、責務を全うしていきたいと考えます。

今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。3期目就任のあいさつとさせていただきます。